

みてみて

VOL.40

2017年2月

ほっと越谷

特集 多様な性を知る

～“LGBT”ってなに?～

男女共同参画に関する苦情処理制度について
相談室からのメッセージ

「LGBTの人が私たちに問いかけるもの」

登録団体活動紹介 LGBT 越谷十人十彩 / ナノ越谷



編集・発行 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」

「ほっと越谷」は、越谷市の指定管理者制度導入により、現在は「認定NPO法人 男女共同参画こしがやとまろう」が管理・運営しています。

※この情報誌はホームページ (<http://hot-koshigaya.jp>) でもご覧になれます。

特集 多様な性を知る ～“LGBT”ってなに？～



私たちの社会には、一般に分けられる男女の性だけでなく、実際には「多様な性」を生きるセクシュアルマイノリティ（性的少数者）の人が暮らしています。しかし、残念ながら、いまの日本は、彼らにとって決して生きやすい社会ではありません。セクシュアルマイノリティの人が生きやすい社会は、だれもが生きやすい社会につながります。

今号では、私たちの身近にある「多様な性」や、セクシュアルマイノリティの人が抱える問題について知り、その解消のヒントを探ります。

寄稿 生きづらさの所在と解消のヒント

LGBTとは？

最近、「LGBT」という言葉を見聞きする機会が増えました。これは、女性同性愛者を指す「レズビアン」、男性同性愛者を指す「ゲイ」、両性愛者や好きになる人の性別を問わない「バイセクシュアル」、生まれつきの身体の性とは異なる性別で生きる「トランスジェンダー」の頭文字からきています。セクシュアルマイノリティ（性的少数者）の人の総称として使われますが、恋愛や性愛の関心を持たない無性愛（アセクシュアル、エーセクシュアル）の人や、生まれつきの身体の性が男女どちらとも判定されないインターセックスの人、自分の性の在り方は多数の人と違うと感じ、模索している人などもあります。

セクシュアルマイノリティの人は、人口の2～10%程度といわれます。日本の障がい者人口は約6%で、障がい者と同じくらいいる感覚です。越谷市の人口約33万9千人（2016年11月現在）にあてはめると、越谷市民の約7千～3万4千人がLGBTという計算です。

プロフィール 山下 梓 さん



岩手県出身。2005年から性的少数者支援にかかわる。13年から14年には、性的少数者の人権に関する国際NGO「ILGA」の共同代表を務めた。11年3月から、セクシュアルマイノリティの人と支援者のグループ「岩手レインボー・ネットワーク」主宰。岩手大学男女共同参画推進室特任研究員を経て、現在、弘前大学男女共同参画推進室助教。主な研究分野は国際人権法。

日常生活のさまざまな場面に潜む生きづらさ

LGBTの親戚・親友・同僚はいますか？複数の国でこの質問をしたところ、「はい」と答えた人の割合は、スペイン66%、ノルウェー65%、イギリス58%、アメリカ55%、ドイツ47%、日本5%、韓国3%でした（※2 Ipsos、2013年調べ）。この結果は、LGBT当事者がLGBTであることを安心して明らかにできる社会的土壌があるかどうかの程度を示しています。現在の日本や韓国は、セクシュアルマイノリティの人にとって生きづらい社会であることを、この数字は物語っています。

生きていくうえで、だれもが生きづらさに直面する可能性を持っています。しかし、セクシュアルマ

イノリティの人の生きづらさには、構造的な背景があります。背景のひとつは、人々の認識です。生まれつきの身体の性と心の性別が一致する人や、魅かれる対象が異性の人が多数派ですが、同じ社会に生きる少数者の性の在り方もその人の尊厳にかかわる平等な価値を持ちます。しかし、多くの人が、多数派の在り方を「当たり前」「ふつう」と信じ、それに基づいた言動をするとき、セクシュアルマイノリティの人は、無理解や偏見、差別や暴力に直面し、自分の性の在り方を他者に明かしても大丈夫とは思えなくなります。

さらに、多くの人の「当たり前」「ふつう」という意識は、法律や政策、支援に投影され、平等にみえる制度が、セクシュアルマイノリティを排除する状況を生みます。その一例が婚姻制度です。2015年3月、東京都渋谷区で同性パートナーシップ証明を含む条例が成立しました。この制度は、日本の婚姻制度では、同性カップルが法的にパートナーあるいは家族と見なされず、そのことで当事者が不便や不利益を経験している状況から生まれました。世界では、およそ20の国が同性カップルの婚姻を認めています。



もう一つの例がトランスジェンダーの人の法律上の性別変更です。日本では、性別変更にあたって、性同一性障がいの診断、不妊の状態であることなどがが必要です。身体の性と心の性別が一致する人が学校、職場で心の性別に沿って生きるのに、不妊の状態は必要とされません。しかし、トランスジェンダーの人が、本来の性別である心の性別に沿って、法律上の性別を変更して社会生活を送ろうとすると、リ

プロダクティブライツ（生殖の権利）を諦めなければならないのです。諸外国では、診断や不妊を性別変更の要件から削除する国々が増えつつあります。

多くの制度や支援が、少数派を含む多様な在り方を前提としていないために、セクシュアルマイノリティの人にとっては、選択したり利用したりできない状態なのです。

生きづらさ解消に向けて

セクシュアルマイノリティの人の生きづらさを解消するには、私たち一人ひとりが無意識のうちに備えている「当たり前」「ふつう」という意識を見直す必要があります。また、制度や支援は、多数の人の在り方を前提としたものから、多様な在り方を前提としたものに変わることが求められます。生活の中で一人ひとりにできることはたくさんあります。「当たり前だよ」「ふつうだよ」といった発言に疑問を呈してみる、「彼女／彼氏」を「恋人」「パートナー」などに置き換える、職場の書類の性別欄は本当に必要か、必要ならば、どう尋ねればよいのかを考える。そういった一つひとつのことが、やがて、セクシュアルマイノリティの人の生きづらさの解消につながります。性の在り方にかかわらず、だれもが安心して暮らせる組織や地域は、人をひきつけ、豊かになっていくと思います。

※1 寄稿では「障害」の表記を採用していますが、著者の了解を得て、本誌で使用する「障がい」の表記に統一しています

※2 Ipsos：イプソス（本社はパリ）は世界的な規模の市場調査会社で、世界88か国に支社があります



レインボーフラッグはLGBTのシンボル

表紙にも掲載されているレインボーフラッグ（虹色の旗）は、LGBTの尊厳とLGBTの社会運動の象徴です。1978年に米国サンフランシスコのゲイ・パレードで使われたのが起源とされます。

現在では、赤、橙、黄、緑、青、紫の6色の旗が広く使われ、6色は性の多様性を表しています。

[当事者インタビュー]

私たちの身近に LGBTの人はいます



2ページにあるように、LGBTの人は人口の2～10%程度いるといわれています。しかし、いまの日本はそれを明らかにしにくく、多くのLGBTの人が生きづらさに悩んでいます。ここでは、私たちの身近に生きるさまざまなセクシュアリティの方に登場していただき、自らの生き方や考えを率直に語っていただきました。



はるきさん

■年齢 20代
■職業 大学生
■セクシュアリティ
トランスジェンダー
FtM*

※トランスジェンダーは、体と心の性(性自認)が一致しない人。FtMは、Female to Maleの略で、体の性は女性で、心の性は男性の人

セクシュアリティは 人間のごく一部

僕のセクシュアリティは、「FtMのトランスジェンダーで、女性として生まれたけれど、いまは男性として暮らしている」……くらいが、自分としてはしっくりきています。

いま思えば、体の性への違和感は幼稚園のころからあった気がします。はっきりと自覚したのは中学3年生でした。はじめはひとりで悩んでいましたが、信頼できる女友だちに悩みを打ち明け、その後、担任の先生や家族にも話しました。母親はじめは僕の言うことを否定しましたが、性同一性障がいにもいろいろな人がいることを知って、だんだんと僕の生き方を応援してくれるようになりました。最終的に家族全員が性同一性障がいの自分を受け止めてくれて、家族には恵まれたと思います。

高校2年生のときに、学校にも了解を得て、制服を男子用に変えました。とくに、高校ではまわりに嫌悪感を持たれることもなく、自分が男性として扱われるようになったのはうれしかったです。男女で分けられることの多い学校では葛藤も多かったです。いまは

文教大学の学生で、LGBTサークル「のとまる」の代表をしています。「のとまる」は、LGBT当事者以外もメンバーになっているのが特徴です。僕は、だれもが気軽に性の多様性について話せる場所にしたいと思っています。

LGBTを知らない人たちに伝えたいのは、セクシュアリティは人間のごく一部でしかないということです。異性愛者には異性愛者というセクシュアリティがあり、だれもがセクシュアリティを持っています。僕はトランスジェンダーであり、大学生で、ほかにもいろんな要素を持っています。セクシュアリティだけで、人間を判断してほしくありません。みんながそんな感覚を持てば、もっと気楽に関係を築いていけると思います。



辻川公恵さん

■年齢 50代
■職業 英語講師
■セクシュアリティ
バイセクシュアル*

※男性にも女性にも恋愛感情をもつ両性愛者

だれもが自分を 隠さずに生きられる 社会に

長い間、人は男と女の2通りしかないと言われ、男性は女性を、女性は男性を好きになるものと思われてきました。しかし実際はそうではありません。世の中には同性しか好きにならない人もいます。そして男性も女性も好きになるバイセクシュ

アルの人もいます。

私が最初に好きになったのは男の子ですが、中学生のとき、初めて女の子を好きになりました。そして高校に進学し、親しい女の子の友人を好きになり、そのころから同性を好きになることに悩み始めました。同性愛は長い間タブー視されてきましたが、同性を好きになるのは生まれながらの性質ですから、自分を変えることはできません。そうだとしたら、そのことで差別されたり、偏見を持たれることがあってはならないと思います。

アメリカでは2015年6月にすべての州で同性婚が認められるようになりました。そして、日本でもLGBTの人たちが自分たちの権利や存在を社会に認めもらうために声をあげ始めています。しかし、その陰で、声をあげられないLGBTの人たちも多いと思います。それは同性愛に対する差別や偏見が、今も社会に根深く残っているからです。私はLGBTの人たちが一人で悩まずにいられるように、「LGBT越谷十人十彩」という会を作りました。

私はLGBTの人たちが自分を隠さず生きていける社会であることを願います。そして、そういう社会はLGBTの人だけでなく、すべての人にとって生きやすい社会ではないでしょうか。一人ひとりの違いを認め、だれにとっても生きやすい社会であることを願います。

太郎さん

■年齢 10代
■職業 大学生
■セクシュアリティ
ゲイ*

※男性同性愛者

LGBTを知らずに 「キモい」なんて 言わないで

僕は男性として男性を好きになるゲイです。中学1年生のころ、友だちにどんな女の子が好きか聞かれて答えられず、その後も自分の中で答えが出せず、「もしかして自分はゲイ?」と思いました。中学2年生で初めて同級生の男子を好きになり、自分がゲイだと確信しました。中学校ではいちばん親しかった女子に「アイツ(男子)が好き」とは言っても、ほかの人にはゲイであることは黙っていたし、高校の3年間でゲイを打ち明けたのは数人です。高校の友だちには、本心ではそう思っていないくても、ノリで「ゲイはまじキモい(気持ち悪い)」と言われ、自分がゲイだ

とは言えませんでした。ゲイであることに負い目を感じ、自分と周囲に境界線を引いて、自分から孤立していきました。常にひとりぼっちで、少し辛かったです。

大学に入る前にケリをつけようと思い、高校3年生のときに、つきあいが長い親友にゲイを告白し、好きな彼にも思いを打ち明けました。でも、彼は異性愛者で、いまでも従来と同様、友だちとしてつきあっています。大学入学後も、自分のカラを破ろうとし、文教大学でLGBTサークルの「のとまる」に入りました。いままでの自分なら、当事者だとまわりに知られるリスクを考えて、入らなかったと思います。でも、少しくらいのリスクならやってみようと思ったのです。家族にはゲイであることを隠しています。僕は一人っ子で、両親は「人間は結婚して、子どもを持つのが当然」と思っています。そろそろ、母親は僕がゲイだと気づくかと思いますが、いずれ話すかどうか決めていません。家族に打ち明けるのはハードルが高いです。

異性愛者に差別されているとは思いませんが、自分たちにとっての本来あるべき姿でない存在として、嫌悪感を抱かれても仕方ないかとも思います。でも、LGBTに限らず、いろんな少数者を、あまり知らないまま、「キモい」なんて言うのはやめてほしいし、人間として受け入れてほしいです。

講座

LGBTってなんだろう?

—互いの違いを受け入れあえる
社会を目指して—

日時 3月4日(土) 13:30～15:30

場所 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」

対象 テーマに関心がある人 40人(要予約)

講師 特定非営利活動法人ReBit(リピット)メンバー

内容 LGBT基礎知識、当事者の学生・若者の経験談、困りごと事例など

費用 無料(駐車・駐輪は有料)

保育 あり [1歳6か月～未就学児、無料。保育締切は2月24日(金)]

共催 越谷市教育委員会

開

催

LGBT関連 図書紹介

「ほっと越谷」の所蔵本のなかから、LGBTに関連した本やDVDを紹介します。「ほっと越谷」の所蔵本は、毎週木曜日と日曜日に貸し出ししています。運転免許証などの本人確認できるものを提示していただければ、どなたでも借りられます。

★LGBTを知るためのガイドブック

◆LGBTってなんだろう？

からだの性・こころの性・好きになる性

著者：薬師実芳、笹原千奈未、古堂達也、小川奈津己
発行：合同出版

子どもたちの生活の中で感じる性についての疑問を、わかりやすく図解入りで解説しています。



◆LGBTなんでも聞いてみよう

中・高生が知りたいホントのところ

著者：QWRC & 徳永桂子
発行：子どもの未来社

Q&Aの形式で、中学生や高校生が多様な性について身近に感じられるように構成されています。



◆先生と親のためのLGBTガイド

もしあなたがカミングアウトされたなら

著者：遠藤まめた
発行：合同出版

学校や家庭で、性に違和感のある子どもたちにどう接したらいいのか。多くの事例を紹介しながら解説します。

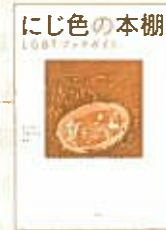


◆にじ色の本棚

LGBTブックガイド

編著：原ミナ汰・土肥いつき
発行：三一書房

多様な性を生きる46人それぞれが出会った本について執筆。小説やエッセイなども幅広く紹介されています。



★当事者（家族）が語る本とDVD

◆性同一性障害

30人のカミングアウト

監修：針間克己 編著：相馬佐江子
発行：双葉社

30人のカミングアウト（セクシュアリティなどの他者への表明）への思いがこぼれています。立場や家族関係を超えて、勇気をもって執筆しています。

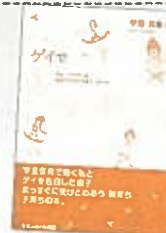


◆ゲイでええやん。

カミングアウトは息子からの生きるメッセージ

著者：伊藤真美子
発行：東京シューレ出版

息子からのカミングアウトに戸惑いながらも受け入れる家族の物語です。



◆[DVD] Coming Out Story

カミングアウトストーリー

監督／構成：梅沢 圭

トランスジェンダーを生きる、土肥いつきさんのドキュメンタリー映像。

※このDVDは、お申し込みいただければ、「ほっと越谷」の前講座として出張上映します



【男女共同参画に関する苦情処理制度について】

越谷市では、男女共同参画の適切な推進を図っていくため、男女共同参画に関する市の施策や男女共同参画を妨げる事案に対する市民や事業者からの苦情の申し出を公平・中立な立場で処理する苦情処理委員を設置しています。

苦情処理委員は、申し出の内容について調査を行い、その結果、必要があると認めるときは、関係者に対し、助言、勧告、是正の要望を行います。秘密は厳守します。

申し出の方法や詳しい制度の内容については、人権・男女共同参画推進課（☎963-9113）までお問い合わせください。

相談室からのメッセージ



LGBTの人が私たちに問いかけるもの

●広がるLGBTへの配慮

2016年8月に開催されたリオデジャネイロ五輪では、自らLGBTであると表明した出場選手数は五輪史上最多でした。私たちの暮らしの周辺でもLGBTという言葉に触れる機会が多くなっています。

ここ数年、性的指向による差別を禁止する社内規定を追加し、同性カップルを結婚に相当する関係と認めるような就業規則の見直しや、LGBTへの理解を深める研修を行う企業も増えてきました。文部科学省もLGBTの児童生徒への配慮を求める通知を全国の学校に出し、教職員向けのパンフレットを作成するなど、啓発のための様々な取り組みが始まっています。また、2015年3月、東京都渋谷区は、同性カップルを結婚に相当する関係と認める「同性パートナーシップ条例」を制定しました。これを皮切りに、全国の自治体でも同様の条例を制定する動きが広がっています。

●多様な性の平等と自分らしく生きる権利

心と身体の性の違和感に悩むトランスジェン

ダーの方から、親や周囲の人たちの無理解、奇異のまなざしなどへの悩みが寄せられることがあります。幼少期から違和感に苦しみ、人生に絶望しながら生きてきた人や、そんな苦しみと決別し、自分の望む性別で生きることを決心した人もいます。また、長年連れ添った同性パートナーが入院したとき、パートナーの親族から面会を断られ、最愛のパートナーを看病できなかったという自責の念に加え、だれにも自分の存在を理解してもらえなかったやりきれなさを吐露した人もいます。

だれにも話せず一人で抱えてきた苦悩の深刻さに圧倒されながらも、LGBTの人の存在を認め、受け入れてこなかったこの社会のあり方について深く考えさせられます。いまLGBTの人が私たちに問いかけているのは、多様な性の平等、そのままの存在を尊重される権利だと思います。

「いない」のではなく「知らない」、あるいは「知っているつもり」だったことに私たちが気づき、「正しい理解」が広まることで、だれもが自分らしく生きる社会の第一歩になるのではないのでしょうか。

相談無料！
秘密厳守！

女性の生き方・パートナー相談、
DV相談ができます

(祝日・年末年始を除く)

●電話相談

☎ 963-9176		☎ 970-7415	
月～金曜日	水・金曜日	土曜日	
午前10時～12時 午後1時～4時	午後5時～8時	午前10時～12時 午後1時～4時 (第4土曜日午後2時～4時を除く)	

●面接相談 (要予約)

予約電話番号 ☎963-9176 (月～金 午前10時～午後4時)

相談時間：午前10時～12時、午後1時～4時

場 所：月～金曜日 越谷市女性・DV相談支援センター
土曜日 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
(第4土曜日午後2時～4時を除く)

★女性のための法律相談 (要予約)

相談時間：毎月第4土曜日 午後2時～4時

場 所：越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」

LGBT越谷十人十彩

その人がその人らしくあることを大切にしています

「LGBT越谷十人十彩」は、2014年にLGBT（性的少数者）の人たちが一人で悩まずに生きられるようにとの思いを込めて設立されました。

LGBT当事者や家族・友人、そしてLGBTに関心のある方のための交流会を、ほぼ毎月「ほっと越谷」で開催しています。学生から70代の方まで、幅広い年齢層の人が参加していて、2年半の活動で参加者はのべ280人近くになります。越谷市近隣だけでなく、千葉や東京から参加する人もいます。交流会では、心と身体の性が一致しない人や同性愛者、また性分化疾患の人など、多様な人がありのままでいられることを大切にしています。

差別や偏見を恐れ、一人で悩んでいる人がたくさんいると思います。2000人以上いる越谷市職員にもLGBTの人はいると思うので、職員のみなさんにもそれを知っ

てもらうために、当事者が自分を語った冊子を作成し、人権・男女共同参画推進課に持って行きました。

だれもがみな異性愛者ではありません。同性を好きになる人もいれば、男性も女性も好きになる人もいます。LGBTの人たちが自分を隠さず生きていけるように、社会に働きかけたいと思っています。



交流会では何でも話せることを大切にしています

【連絡先】
LGBT越谷十人十彩
090-9812-9919
E-mail: junin-toiro@ta2.so-net.ne.jp

ナノ越谷

高次脳機能障害の理解と医療・福祉・介護・地域の輪づくりをめざして

高次脳機能障害の当事者、家族、支援者の会「ナノ越谷」は、埼玉県の委託を受けて相談や研修事業を実施する「地域で共に生きるナノ」の地域相談会で出会った12人のメンバーで、2013年1月に活動を開始しました。活動のテーマは、高次脳機能障害の正しい理解と医療・福祉・介護・地域の輪づくりです。

高次脳機能障害とは、脳卒中などの病気や交通事故などで、脳が傷つきうまく働かなくなっておくる中途障がいです。外見からはわかりにくく、本人に自覚がないこともあり、「見えない障がい」とも言われます。退院後、社会資源や制度を使って生活しますが、障がいの認知度が低く、困りごとも多いので、情報の共有が大切です。また、脳卒中の後遺症で高次脳機能障害となった65歳未満の方の支援を考える学習会なども行っています。

病気や事故は、いつ、だれが当事者になるかわかりません。決して他人事ではありません。「命が助かってよかったが、何かおかしい」。それは、高次脳機能障害かもしれません。

これからも、当事者や家族が住み慣れた場所、自分らしく生きることができるよう活動を続けていきたいと考えています。



高次脳機能障害の研修会

【連絡先】
ナノ越谷
小宮：090-1844-3766
E-mail: machi@yc5.so-net.ne.jp



みてみてほっと越谷第40号

平成29年2月1日発行（年2回発行）

編集・発行 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
(指定管理者：認定NPO法人 男女共同参画こしがやとまろう)

所在地 〒343-0025 越谷市大沢3丁目6番1号
バルテきたこし3階

T E L 048-970-7411

F A X 048-970-7412

E-mail 00941mw@hot-koshigaya.jp

U R L http://hot-koshigaya.jp/

開所時間 午前9時～午後9時（日曜日は午後5時まで）

休所日 月曜日、祝日、年末年始（月曜日が祝日の場合は火曜日も休所）